

自然と生き物の色々な話

～要注意!海山で出会いたくない生き物～



皆さんこんにちは。私が働いている山陰海岸国立公園は、国立公園の指定 50 周年を迎え、海岸や砂丘などで記念イベントがたくさん開かれています。夏は楽しいイベントが盛りだくさんですが、注意して欲しいのは事故やケガ等をしないことです。

今回は事故の原因となる「生き物」を紹介します。

まずは山で出会いたくない生き物を紹介します。



オオスズメバチ(大雀蜂)

世界最大で日本で最も凶暴なハチ。ハチが近寄ってきても手で追い払ったり、叩いたり、巣に近寄り過ぎなければすぐに刺されたりはしませんが、出来れば、静かにその場を離れましょう。

ただ、カチカチと音を立て始めてたら要注意。急いでその場から離れないと刺される可能性が高いです。ちなみに長野県ではオオスズメバチに限らずスズメバチを食用にします。



ニホンマムシ(日本蝮)

銭形模様とヘビにしてはずんぐりとした体の特徴です。

日本で 2 番目に強い毒を持つヘビです。なお毒が 1 番強いヘビはヤマカガシですが、こわがりなヘビであるため捕まえようとする限りはかみません。

マムシにはピット器官という赤外線センサーのような役目を果たす器官があり、夜でも獲物がどこにいるか分かります。



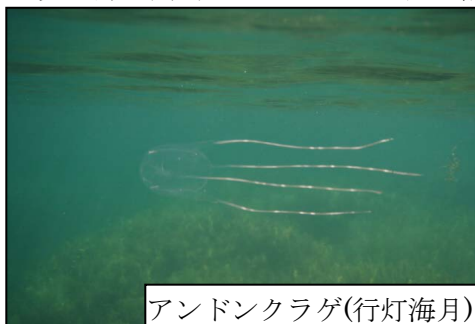
ツキノワクマ(月の輪熊)

胸に三日月型の白い模様があることが特徴の熊です。

大きさはオスで 150cm ほどで体重は 100kg ほど。

鈴を付けて音を出しながら歩いていれば出会うことは少ないです。草食よりの雑食の生き物でドングリや昆虫、動物の死骸などを食べて生きています。また、かなり足が速く、山道でも五輪短距離走金メダリスト以上のスピードを出すことができます。

次は海で出会いたくない生き物の紹介です。



アンドククラゲ(行灯海月)

お盆くらいから海水浴場などでよく見るクラゲです。

「電気くらげ」と呼ばれる強い毒をもつクラゲの一種です。時代劇でよく見る行灯に形が似ているところから名前がつけました。大きさは 3cm ほどですが 4 本の触手は 20cm あります。

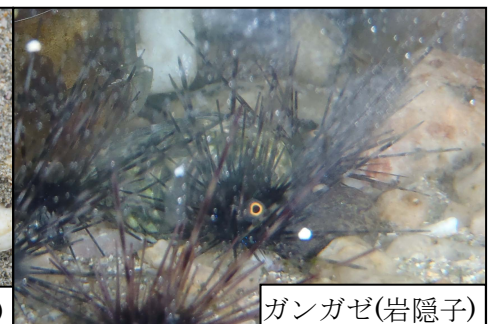
クラゲとしては泳ぐ速度が速いため、ぶつからないように注意してください。



カツオノエボシ(鯉の烏帽子)

捨てられたビニール袋のような形が特徴的で、日本のクラゲの中では毒が強いクラゲです。

カツオノエボシは、ヒドロ虫という生き物が何匹も集まって一匹の体を作る“群体”というつくりをしています。なお、浜に打ち上げられていても素手では触らないでください。たとえカツオノエボシが死んでいても触るとその刺激で毒針を発射する事があり



ガンガゼ(岩隠子)

棘が鋭く長く細い事が特徴です。棘は皮膚に刺さりやすく、刺さった棘は折れて皮膚に残り、痛みが増します。一応はウニですので食べる事が出来ますが、あまり美味しくはなく、労力と棘に刺さる危険性を考えれば捕まえられない方が良いでしょう。

ちなみに写真の橙色の部分はガンガゼの肛門です。

夏場に出会いたくない危険な生き物を 6 つ紹介しました。皆さんが海水浴やキャンプ等で遊ぶ際には、これらに十分気をつけて自然を楽しんでください。